

問い合わせ先：第21回日本医療マネジメント学会学術総会
事務局 独立行政法人地域医療機能推進機構中京病院
担当：井澤(総務企画課)
〒457-8510 名古屋市南区三条1-1-10
TEL：052-691-7151 FAX：052-692-5220
E-mail：jhm_chukyo-hosp.jimu@chukyo.jcho.go.jp
運営事務局 日本コンベンションサービス株式会社
〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2
大同生命霞が関ビル14階
担当：北里暁裕、兪 佳妮
TEL：03-3508-1214 FAX：03-3508-1302
E-mail：jhm2019@convention.co.jp

的でした。

第2日目は今回のテーマ「職員の安全をまもる 患者トラブルへの対応」についてのワークショップで、三木明子先生(筑波大学)のリードで実りの多いワークショップが全員参加で行われました。三木先生のお話は極めてリアルで、説得力のあるものでした。先日もある病院で、「暴力防止啓発ポスター」が掲示されているのを見ましたが、掲示してから目に見えてクレームが減ったとお聞きして、病院の姿勢を明確にすることの大切さを痛感しております。貴重な研修の機会をご準備いただいた坂本先生(日本医療マネジメント学会副理事長)はじめ関係者の皆様に感謝申し上げます。

2017年度医療安全分科会に参加して

医療法人寿人会木村病院医療安全管理部

医療安全管理者 水谷 富士雄

今年は記録的寒波が列島を覆い、前日からJRが運休しないかを心配しながら家(福井)を出発し、初めて医療安全分科会に参加をさせていただきました。

プログラム初日基調講演からは、医療施設と医療安全管理部門に対して、これから国が求める医療安全対策を学びました。続いて遠山先生のご講演では、医師からのインシデント報告数を増やすテクニックと、再発防止と質改善の取り組みは大変参考となりました。特に若いスタッフへ働き掛けて、安全意識と報告意識を向上させるのがポイントだと言われた事が記憶に残りました。当院でも非常勤の若い医師や、ここ数年内に就職した職員からは積極的に報告されているので、育てていきたいと思えます。

私が診療放射線技師として働く職場では、患者の暴言暴力への対応はこれまでほとんど経験が無く、安全管理者としてどう取組むかのヒントを沢山頂きました。ワークショップでは、他施設の医療安全の取り組みや、異なる職種の意見や考えを聞くことが出来てたいへん参考となりました。

2018年度4月から、医療安全対策地域連携加算が開始されます。加算1または2を申請している施設では今年の大きな課題と成ります。次回の分科会では「地域連携」をテーマとしたプログラムを企画して頂きたいと思えます。

最後に、今回学んだ暴力対策の基本を、現場で活かせるように努めてまいります。ありがとうございました。

支部学術集会開催報告

第8回愛媛県支部学術集会

学術集会会長：医療法人財団慈強会松山リハビリテーション病院
院長 木戸保秀

開催報告

分科会等

2017年度医療安全分科会に参加して

医療法人財団鷺の木会南晴病院理事 吉田和幸



ワークショップ風景

学会には比較的よく参加していますが、医療安全分科会は今回が初めての参加です。また、会場は東京・原宿にある日本看護協会のJNA

ホールで、こちらも初めてでしたので大変良い機会となりました。1月の非常に寒い時期でしたが、全国から医療安全の担当者を中心に様々な職種の方々が集まり、熱心に2日間の研修に参加されておりました。

ご講演やアドバイザーとして参加された先生方は、現在医療界の第一線で活躍されている方々で、大変豪華なメンバーで、中身の濃い時間を共有することができました。

第1日目は講演です。基調講演は厚労省の医療安全担当官で、中でも注目しておきたいと思ったのは平成28年6月の医療法施行規則改正による特定機能病院(大学病院本院等)の承認要件の見直しで、医療安全にかかわるところが中心です。今後、一般病院の医療安全についても大きな影響があると考えます。遠山先生(自治医科大学附属さいたま医療センター)のお話では、「医療安全文化とは報告文化」であること、医師のインシデント報告をいかに推進するか、大いに参考になりました。相馬先生(千葉大学医学部附属病院)はWHOカリキュラムガイドを踏まえ世界標準から医療安全を考えること、重要概念の定義やノンテクニカルスキルのお話が印象